

<ねがい>

一人一人の子どもの姿に応じた保育士の温かい働きかけによって
自分の欲求を満たしながら生活してほしい。

～ 一人一人の生活リズム（食事・排泄・睡眠・着脱）を尊重する ～

「アギアギ、カミカミ」
ゴックンできるかな？

食べる意欲に寄り添う



視線の先をいっしょに見て
興味、関心のもとを探り
共感する

保育士の温かい視線と
見守りの位置

- 子どもの視線を遮らない
- 安心の距離と場所



視線を遮らないよう背中側から支え、子どもの言葉
を聞きながら応答的な関わりをし、自立を促す



表情を見守る温かなまなざし

ポイント

保育士の応答的な関わりや、子どもの気持ちを尊重した
時間的な配慮や空間的な環境づくりから安心した時間を
過ごすことができる。



<ねがい>

気持ちに寄り添ってもらい温かい関わりの中で安心して過ごしてほしい。

～ 精神的な安定を支える優しく温かい関わり ～

安心の場での見守り

「どこか痛い？」
「ここ、気持ちいい？」

安心・安定の場所の保障

あっち～！！

気持ちの受容・共感

お兄ちゃんの「くつ」
はきたかったんだね。

欲求、要求の目的を探る

あっち行く～！！

ぼくの「くつ」はいてる・・・

おっきい「くつ」
はきたかった・・・

ポイント

保育士が子どもの気持ちや、行動やしぐさを丁寧に観察し、心を探ることで、子どもの気持ちに共感し、思いに寄り添うことで情緒の安定につながる。

<ねがい>

自分の気持ちを安心して表現し、信頼感の中で過ごしてほしい。

～ 思いを温かく受け止め共感する ～

この子、お熱が
あるみたいなの

ほんとだ・・・。
おでこ熱い



応答的な対応と理解

保育士が、目を合わせ関わっているのは1人の子だが、背中にくっついて
いる子は、保育士に全身を委ね安心を求め、保育士は背中全てを引き受けている。
レールで遊んでいる子も、自分の思いを保育士に話しながら遊んでいる。様々
な行動をしている子を受け止め共感している

食べ方にも様々な特性が出る。大人が決め
つけない提供の仕方で、子どもの欲求を満たし
気持ちを肯定する

どうしてA君はご飯にカレ
ーをかけて食べないの？

A君は白いご飯が
好きなんだね。

ポイント

こうやって食べるのが
一番おいしいんだ！

A君は白いご飯が
食べたいんだって。

だから、カレーと別々
に食べているんだよ。



気持ちを受容してもらい、尊重されることは自己肯定感を高めることにつながる。

★ 保育士一人ひとりが心に余裕を持ち、「養護的な関わり」を ★



ゆったりとした時間の中で、目と目を合わせ授乳し、保育者が子どもの安心基地になる



子どもがそこで何を見て何を感じ、何を願っているかをじっくりくみ取り、気持ちに寄り添い、共感することで愛着・信頼関係の構築につながる



複数の保育士がそれぞれの場所でバランスよく見守り、安全基地となり安心して探索活動ができる



保育士の見守りの中で
安心して遊びの場を見つける



まとめ



- ・ 応答的な関わりをすることで生理的欲求（排泄、着脱、食事、午睡）は満たすことができる。
- ・ 成長の過程を見守り、意欲的に生活できるよう温かく関わる。
- ・ 養護的な関わり、信頼感を基盤として自己肯定感主体性を育む。